

【89】「圻川」はどう読むの？

少し長い話しになりますが、文化的にも興味深いテーマですので御辛抱ください。

東京の北東域の足立区と埼玉県南東域の八潮市との境界つまり都県境に「圻川」（がけがわ）という川があります。この字は地元の人以外には読めそうにありません。内水河川の綾瀬川と中川を運河のように結ぶ長さわずか2 km 巾 20～30mの水路のような小河川ですが、綾瀬川と中川は一級河川荒川の支川ですから、圻川も小なりといえども一級河川です。左右岸で都県が異なり、左岸（北岸）は埼玉県が、右岸（南岸）は東京都が管理しています。圻川は、古地図、地形そして自然堤防の存在などから推定するとかつては河巾 100～200mの大河で、江戸時代以前に利根川が東京湾に流入していた頃の流路の一部です。

さて問題は、「圻」という見慣れない漢字です。この「圻川」の北岸八潮市側の自然堤防上の集落とその下の水田地帯の地名に「圻」（がけ）があります。「圻」という字の意味は、土の斜面のことで崖と通じるところがあるようですが、中国の漢字ではなく、「岨」や「辻」のような日本で生まれた“国字”と称されるものです。「圻」は日本でここだけでしか使われていないため、以前は漢和辞典に載っていませんでした。

ところが、近年、この辺鄙な水田地帯の八潮市にも、つくばエクスプレスという近代的な鉄道が通ることになり、新駅を中心に区画整理が大規模に展開されて市街地化が進んできました。それとともに旧来の地名に代わって新しい地名や地番が付されるようになり、外部に通じない「圻」の名もいずれ変更されそうな状況になってきました。

この動きに思わぬところから援軍が入りました。昭和53年に初めて制定されたパソコン用漢字のコード化のJIS規格です。パソコンの漢字は、キーボードで自由に呼び出せ手書きの苦勞が無いので、難しい漢字が含まれていても、教育漢字がどう当用漢字がどうなどのうるさい議論がありません。現在までに約1万字の漢字がJIS規格でパソコン用にコード化され、地名は重点的に拾ったようで、「圻」の字も第2水準とやらで採択されました。

それとともに漢和辞典にも載るようになり、「圻」の字は市民権を得、八潮市も当面は残す意向のようです。河川名は地名とは異なり、人々の生活への影響は少ないこともあり、これでどうやら「圻川」の名も安泰のようです。